平新報

發行日 月一回
毎月10日發行
編輯兼發行印刷人 山野邊庄吉
福島縣磐城市大字岩出字向二八
發行所 平新報社
一部定價拾円送料八円
廣告料 一行 五十円

謹賀新年

新年を迎ふるに當り、勧善懲悪！邪悪と闘う決意は益々加はり!!世を明るくするため、先つ自家、大字岩出、小名濱市の暗雲を拂ふを念願す

山野邊眞立
平新報社

【眞立随筆】

柴燈護摩の悪評

駒忠事件即ち磐城市政の乱脈不正邪悪剖見（二）

常磐市の拾参万圓の不明朗

（前號よりの續き）あのタキツケにするものを强制的に殊に常磐市の如きは市吏員を當らした、希望により等と申し添えて居つたが、隣組や區長が心配もするもの誰がこばみ得るものでないPTAや婦人会で売る札より以上强制的であつたらしい、狸谷（マミヤ）不動院の山伏實修、行列は見せものなのか、護摩奉修というが海岸に入つて海難者、水難者の追悼でもやつたのか、炭礦地帯で災難（坑内で死んだ人）の靈でも慰めたのか、一つも宗教らしい眞髄なところがなかつた、只觀光的見地から人よせの行事とせばあまりにあれだけの消耗品を、火と化せしめた灰とした。ゴマ木はタキツケだから、實に迷惑千万なものとの聲が大きい、湯本での話だが、猪狩四郎氏に平で野菜冷凍業をやる計畫であつたが、全氏にその株をとられて了つたとこぼして居る平の人が居つた、何も柴燈ゴマと魚市場と冷凍は關係なさそう、だが種々な雜音の批判を耳にする。

酉年生れ還暦の人

平市二丁目 關内正一氏

平市五丁目 諸橋元三郎氏

★名和岩内

小名濱局の消印で名和岩内という達筆なハガキで長瀬議長外二名が磐城警察署長に金品を贈呈し、それを署長が受取つたそうだ、これは何か寄附をした事だろうと思うが、かりにも長瀬彰議は刑事被告人である、民事でもどうかと思うが刑事被告人から金品を受取られる筈はない、この噂さ投書等が事實とせば檢察廳は不問に附すべきに在らずと筆者は信ずるものである。

★酒主亮道氏の雅量

小名濱古港元修生院、高野山派福島縣本山の師は今回十一月二十四日の柴燈ゴマの行列に參加したが招待をうけたので參加したとの事初めは奉讃会から何ら相談もうけなかつた事は事實であつて、此處に智山派と高野山派の派流がある事は本紙が前報の通りである、植田では神官が行列に參加して居つた勿論、福鄕多郡方部には僧侶は居らずすべて一神家祭だから不思議はない

★常磐市の十三万円事件

三十一年、年末の話題は柴燈ゴマの悪評と、駒忠事件の未解決、即ち磐城市政の乱脈振り常磐市の不明瞭なる十三萬円事件である、何事も臭いものに蓋をしてはならぬガラス張りにすべきで市民の納得する様、善處すべきである、この意味で柴燈ゴマも公共から共讃をとつたのだから精算報告を以て前廣告せる如く各新聞社に諸橋委員長、猪狩副委員長、事務局はその責任は十二分ある筈である、古川勿來市長が上下を着なかつたのは何も不思議あるまい、自治法に何とあるか知らぬが現憲法で特定の宗教（神社も含む）に自治体が觀光に名をかりて協讃する如きは、非常識極まるもので或る信心者のみの協力は天理教の如く、田を売つてまでもよかろう、野崎滿藏氏の五萬円、駒木根忠敬氏の一萬円、井坂久吉氏の五千円、本人が信徒總代二人が來られたから贊成した野崎滿藏翁の如きはとられたと申して居る、一休野崎氏はあの際、論理をつくして反對と注意をせねばならぬ立場にある筈である、然るに、彼も又人よせ稼業の社長であるだけ儲けの○が入いるの念願して居る、社会公益という觀念がない、この意味で野崎氏も大衆から批判の的となつて居る、そんな余有があるなら冷害地農家へでも向けぬのか筆者は釜屋でも常磐交通、常磐炭礦は勿論、殊に磐城市當局の被告人どもの言動が割り切れぬのである、借金迄して納税しつゝある、吾ら農民の税金は何に向けて居るのか、磐城市の○○一五號の自動車は市長と議長の常用車となつて居る、彼らは、私用に飛して居る去月十日の駒忠事件の準備公判の折など被告人とそれが辯護人眞木、雨宮等は湯本玉川の○○ホテルから赤い顔して八幡小路に乗りつけて居る、さめてから法廷入りすべきである。

來月は公開裁判

駒忠事件（公開に在らず）

又も準備公判の續行

一月二十二日午後一時

駒忠事件の民事は愈々常磐炭礦が應訴し、市井辯護士となり草野惠正の辯護士は桑山盤顯とか、此處に不可解なるは市井辯護士は長瀬議長の主任辯護士である、常磐炭礦は何が故に專屬の辯護士を立てぬか 常磐炭礦の當の責任者は地元取締役飯島隆俊氏であると聞いて居る、長瀬議長と接衝したのは確かに、越智所長でもなければ木山總務部長でもなかつた筈だ、處が記者会見（第二会館）となると木山社が當つて居る政党なら幹事長というなら判るが、營利会社ではおかしなものである、彼の談話によると常磐炭礦が草野、駒木根兩氏間で契約ののち取消しになつたと言はれる、草野氏の土地を常磐市を通じて購入したいきさつは一会社がこの土地を買つたのは磐城市に頼まれ、会社としてはそれ程利用價値があるとも思えない土地だつたが、市の立場を救ける意味で買つた」その結果が被告の立場となり、また土地ブローカーまでやるのかという始末に至つた爲、会社側では去る十月十七日磐城市當局に對し共同被告から取り下げるよう厳重抗議を行つた、しかしこの際、降る火の子は拂はねばならず、應訴の措置をとることになつたが一たん應訴した以上は示談などの解決策には絶對應じない強い決意を固めている云々……

これがおかしいのである、原告側は示談等と夢にも見て居らぬ鈴木義男氏の決意は常磐炭礦より固い古傳さん忠敬氏夫妻の仲人という情實から常磐炭礦と單獨示談したらどうかとか忠敬氏にせまつたそうだが忠敬氏は條件の如何にかゝわらず一たん裁判官を煩わした以上は斷じて示談は出來ぬと古傳氏をけつた由である。

一、取消しになつたと言われる云々は、これ又不思議で長瀬議長が取消しになつたとウソを申して常磐炭鑛に売り込んだとしたら、それを信じた常磐炭鑛には人がないという外ない草野氏が一方的の取消であつた事は常磐炭鑛でも判つて居つた筈だ、

一、それ程利用價値があるとも思えない土地だつたが市の立場を救ける意味で買つた即ち買つた事は事實である、登記ずみも事實である、

×××

福島縣平市三ノ六ノ一
常磐化成株式会社
駒木根忠敬様
京橋七五八 晋 留
消印三十一年八月十九日
東京都中央區銀座東五ノ四
常磐炭鑛株式会社
齋藤俊夫

右は封書の表がきだが中身は常磐化成会社の事業計畫書が入つて居り、即ち常磐炭鑛で二十日間も精密研討して駒木根氏へ返してよこしたものである、其間の野心は推して知るべきである

・若松修一氏は常磐炭礦は善良なる第三者であると主張するがどこが善良なるか、金權暴力を振う、地方産業の利益を獨占する暴利会社である、主要食糧增産の敵である、常磐市合併當時舊鹿島村、三部落より常磐炭礦で働いて居つた人々に合併に反對するものに對してどういう態度をとつたか、彼ら職場、土地買上げ等は納得づくでない余談に入つたがすべて計畫的である、内鄕坑廢坑企業合理化等と何處へ地下地上進出するや「それ程利用價値があると思いない土地だつたが」と申しておるが、然らば化成塑値より坪二百五十円高く買ひ上げたのか、木山君のいう通り「磐城市の立場を救ける意味で買つた」とかだがその二百五十円は誰の財布に入つたのか、その金錢の取引は市長選酣（たけなは）の時である今更、日時を明記する必要あるまい春秋の論法を以てすれば、常磐炭礦は磐城市に實害を與えて居る、長瀬議長數人に利を與えた事になる、磐城市民大衆の立場を救けた事にならぬ、常磐炭礦が野心を以て買ひ上げずば、こんな暗い磐城市とはならぬのだこれが金權暴力というのだ、大越新社長が小野保氏に筆者に傳言したそうだが欲しくて買つたのではない、現地のやつたことだ、上京したらよつてくれとか傳言した相だが一体、現地の取締役飯島隆俊氏が「おれも辭表出すから木山君も出せ」と申して飯島さんは辭表を出した事の噂サになつて居るのだが、本當に辭表出したのか、取締役会長の大貫經次氏に御尋ねしたい、この噂さを放任して置くと磐城坑には派閥が派流があつて全山動揺するからハッキリするがよい、兎に角新さんその後健在かね要は健康第一、第二職域奉公昔の二八会友に返つて善處せん事を念願するものである、これが筆者、眞立の眞意である、東京には近親も居るから時折上京する理由は平新報を經營して居るから君は金でもせぶられるだろう位に考いて居るだろう、これは邪推じやない君はそういう心の持主である事は過去の事實と言動が證明して居るのだ金は出しても（個人的に）生きた社会公益には出せぬ、常磐炭鑛自体がそれなのだ、何！磐高、白水あみだ樣、何々新聞、そんな事は常磐炭鑛大越君個人の眞意が判り切つて居る

○若松修一氏等の如きは先考が確かに土地そのものを提供したであろう。然しそれ以上酬いられて居る、これは常磐炭礦でないが小野田が實例である。やがて内鄕市がそれに近づいて來る湯本温泉は昔にかえれぬ、礦害をうけた農村の永久的の實害、それに常磐炭礦は酬いて居るか。

愈々リコールに入る!!

中之作の磐城市議会議員の遠藤勝政氏の駒忠事件の眞相と顛末と題するパンフレットなるものを某氏からうけて精読したが議会人としては當を得た事で相當研究もしたであろう。金成の橋本佐多吉議員の論旨も前號に報じた通りうなづける點がある。然し、彼等議員は本末を顚倒して論議して居る、長瀬議長や中田助役のやつた事を是認して居る樣な感じだ。勿論、君等が推した議長だから不信任案を出してならぬと心得大まちがい、リコールなるもの自ら推して投じて議員たらしめ、議長たらしめても就任後、やり方が悪るければ當を得なければ不信任するのが本當のリコールなのである、氣にくわぬだけでリコール出來る現規則である。況や長瀬議長は刑事被告人である、起訴されぬからとして議長として道徳的に脊格あるまい。小野務平を除く三十四名の議員諸君は○櫻の一斗づつ議長選のとき買つた事は噂さ許りでなく今日、長瀬議長の不信任案を出せぬ所を見ると、○酒一斗を買つてのんで了つた事になる一体、長瀬は議長という職位を乱用して酒売りをなして居る、その一例を擧げれば。過般田邊の學校新築落成祝の折り約五百人も招待したが五百名全部長瀬のビンつめであつた。彼の事だ寄贈なんかするものでない、玉ヮつて暴利をむさぼつたに相違ない、彼の實弟、光三も然りでPTAの副会長をして居るが、學田の米は處分するし、事毎に學校に品物を納入する貯金は郵便局へもつて行くかつての主要食糧集荷の登録の折も彼は食管法違反で處罰されて居る原則として出來ぬ筈だそれを妻のフウ子の名にして强引に筆者、玉協組合長の折抗戰して來た、彼の影には野崎藤太あり、食糧支所長あり丹忠蔵（これは光三と從兄弟）丹野作平課長、實兄の長瀬議長あらゆる悪手段を弄した。今以て丹忠蔵、丹野作平等は長瀬フウ子に登録して居る。今回は林城のエンチキ倉庫はまかりならぬとなり長瀬登録供出者米は長崎の一里半もある、江名な分倉庫へ運びつつある彰義は金貸しだ故吉田厚氏とは兄弟分などと親しくして居つた。故厚氏の病める當時厚氏の死後、遺族にどう言仕業をなしたか彼の慘酷ぶりは眞立の筆では表現出來得ない要は長瀬彰義のリコールだが市議会でも不信任を出さぬ検察廳でながびかして居る、愈々法的に酒玉川地區でリコールの準備をせねばなるまい、小野務平や長瀬彰義を磐城市の要職の席においたのではいつになつても小名濱市の天地、空は明るくならぬ、これは一般市民が抱く心情だがそれが、實行に入れぬ（つづく）

謹賀新年

小名濱港古湊五五
醬油味噌醸造業 志賀要平

磐城市小名濱港
縣議会議員 土木委員長 小野義一

縣会議員 厚生委員 會田亮

平市十五町目四 電話六一〇番
辯護士 大嶺庫法律事務所

常磐製薬株式会社
代表取締役 駒木根忠敬

平市三丁目 合資會社 藤居商店
代表社員 藤居勝武

常磐市湯本 鯨岡潔

小名濱西町 菅原道一 電一〇二六
味自慢 銘茶販売 鹿島園

磐城市農業共済組合長
全市農業委員会代表者 柳井五郎

住吉神社 渡邊繁

磐城市銀座通り 助川龜藏 全きみ子
助川寫眞館

平市二丁目
松浦靴店 松浦直惠

福島縣芸妓・芸妓屋組合会会長
平市芸妓屋組合長 白土喜伯

磐城市農業協同組合連合会長 駒木根忠三
小名濱農業協同組合長 草野新兵衛
江名同 作山豊七
鹿島同 荒川恒義
泉 同 志賀蓮
渡邊同 久保木吉士
玉川同 駒木根忠三

頌徳碑建立の聲
治水、増産の功勞者
駒木根忠三氏

磐城市大原石井幸平氏等主唱、發起となり駒木根忠三翁の頌徳碑（胸像？）を磐城市野田八合玉川農業協同組合事務所前に建立すべく南富岡（當時の水害地）住吉、大原舊玉川村一圓其の他地方有志に協賛を得べく促進運動を開始するとの事である、氏の社会奉仕の一端を記して見る

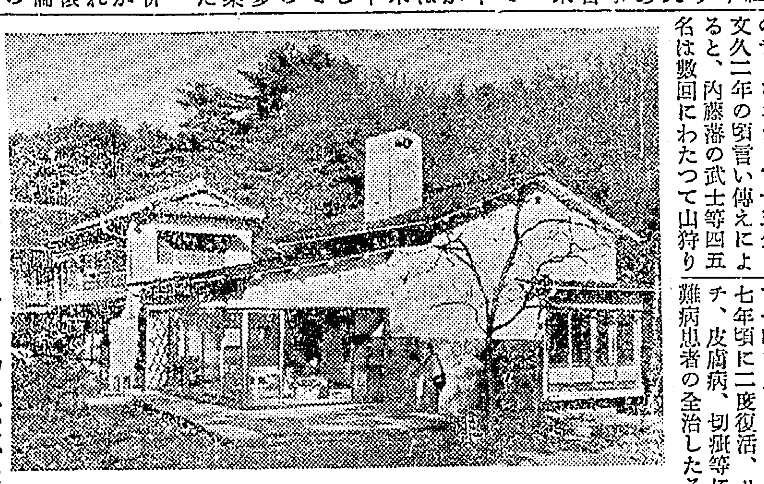
駒木根家の祖先は藤原親至の後えんで式部大輔平兼家の四男刑部大輔駒木根太郎兼頼のち從五位下條野太夫となる平教盛公に仕え肥後國条原の郷に住すとあり、氏は村議五期二十年助役村長二期を務めて其他産業組合長二十五年一日の如く務めた人であり、駒木根忠三氏は明治十八年十月十日磐城市大字大原に出生す、氏は一生の間後代に殘る三つの大仕事をやつて居る在郷軍人分会長として大正八年四月忠魂碑を大字住吉鑛山に建て村長として矢田川藤原川の治水工事業を遂行し産業組合長として農業倉庫を造りたしかに舊玉川史の一頁を飾る人物と云うてよかろう

彼は星製薬主星一先生の縁故で若くして星製薬KKの姉妹会社として株式会社磐城配給所を創設し其の社長として大いに活動し農村の青年には珍らしい氣前のよさを發揮し殊に舊家の名門と押しの強さとこの氣前のよさが加つたればこそ若冠三十一才で村会議員にもなれたのである

歴史で有名磐城判官の居城鑛山に忠魂碑を建立したのは大正八年四月である、氏は村議五期の時永井億彌村長の死亡後を繼いで二ケ月程助役をやり。昭和四年六月で四十一才石城郡内は、勿論、縣下で一番若い村長であつた、氏は村長として矢田川、藤原川の川線改修を致さなければならない、茲に心を致し就任早々多年水害に悩んでいた矢田川、藤原川の治水工事を遂行し村の大恩人として永遠に敬慕される基となつた、由來玉川村は縣下でも水害村として有名であつた、矢田川藤原川は少しの雨にも氾濫して田畑の冠水甚しく毎年其の被害を蒙つていたが、氏の村長就任の年、昭和四年は大洪水であつた矢田川の決壊七個所、藤原川の決壊二ヶ所冠水した、水田四百餘町歩、畑壹百町歩慘憺たる光景を呈した、氏は敢然と立ち上つた、村百年の計の爲に兩川の根本的改修工事を行うと決心したのだ氏の努力により矢田川は六萬円藤原川は四十三萬五千円の工事を施行する事、縣の承認を得ました、工事部落請負として施行致し工事費は村より一文も支出せず補助金と矢田川は土地代金まで支拂に成功致しました是れ偏に氏の力である爲に昭和六年より昭和三十一年まで毎年反五俵以上收穫出來る樣に相成りました、大原老婦人、雨の降るたびに手をあわせて氏を拜んで居る人、數人あるとの事であります、氏は信販利購利組合長として玉川村組合長に就職致したのは昭和五年四月であります。其の時は玉川組合は七千円也の欠損のため、縣信連より又農工銀行より督促を受け支拂出來ず、問題となり常務理事、專務理事は刑務所收容せられ、理事監事は財産をエンペイした爲に銀行よりは詐害として訴へられました。組合長になり手がなく組合員は誠に困りました、氏は村長でやむなく村人の希望により就職する事になり、常勤で年俸百八十円でありました、七千円也の借欄をカタ替りせねばならず、氏は田畑を縣信連農工銀行に質入し組合のため常勤で月十五円也、九十五ケ年間を勤めたのであります。其の間、組合を再建し昭和九年には倉庫を建設し、昭和十九年四月には退職致しました。然るに、農業会より農協に相成るまで四年間組長四人替りました又、昭和二十四年四月組合員の皆樣のすすめにより組合長に就任致し、今日に至る氏は信販利購利組合と云う。當時付等の爲、内部の紊乱、甚々しく司直の危介になる有樣であつたが氏は組合長として其困難を排除し赤字を克服し建全なる組合とする事に成功した、氏自慢の石造倉庫も造つたが十九年改組して農業会となつた際、退任した然し、其後經營難の爲め二十四年三月業務務閉鎖となり再び迎へらて組合長なり、現在にいたる今磐城市の農協連会長であり石城郡副連合会長であり又福島縣共濟連合会理事であり又鮫川堰土地改良區理事をやつて居る、氏は常に自分作の米を自分で評價出來得る樣にしたいと念願し、主張すると共に市に對して冗費節約の爲め吏員を半減せよそれで立派に仕事が出來ると叫んでいる、氏は昭和五年の豐作で一俵の米の代金十円のものが全年十一月には一俵六円に下落したので米專賣論を提唱して一躍天下に名を賣つたものた、昭和六年四月会津喜多方町で縣町村長で是を提案採譯され鹿兒島で行はれた全國村長大会に出席滿場一致可決されたのであつた併し專賣にはならなかつたが米穀カン理法案とあらわれて駒木根氏の主張した是れ一俵九円になりました是れ一偏に町村長会と云う、團体の力であると申して居るが君の力であります又は、氏縣下町村長大会の時は持時間五分間であつたにも不拘す五十五分間例の能辨家で早口でまくし、たてられ流石の老練田中盛雄議長も側止する暇なくアッけにとわれて居る中に五十五分は報過して滿場一致米專賣論を可決したのであります。これ辨セツの力である氏の辨は全く速い口角泡を飛して論ずる處恐らく、天下に君に匹適する者はあるまい聞く方も無我無中でアッ氣にとられながら何かに魅せられた樣な思はず、拍手かつさいして了つたのだ當、天下の能辨家といわれた、島田三郎衆議員議長、衆議院の速射砲とあた名され速記者を泣せた山道讓一代議士、（民政黨幹事長）の早辨も到底氏の敵ではないその辯は特に天下一品だ、氏は酒はのまないがよく宴席で軍談を語る阿ほ陀羅經を讀み滿せ出る涙をこらいながら爆笑こう笑の波を漂するも亦宜なるかなやと思われる家業は四男文太が繼ぎ長男忠敬は平市でホシ薬局を經營して居新進實業家だ氏は令七十一歲壯者をしのぐ元氣さだが年のせいか昔の理くつぽさがなく人のよい好々やだ今後は何の野心も起さずに舊玉川の元老として農協を守りゆく事が第一心がけて縣共濟連合会理事として玉川農協共濟生命建物共濟に契約何と三千萬円なる樣努力中感謝〳〵。

酉年の春を迎えて
白鳥鑛泉

白鳥鑛泉は常磐市大字白鳥勝丘にあり。昔は大作の湯と云われ、常磐線湯本駅より約二十五、六町同鑛泉のサービスカーで十五分、文久二年の頃言い傳えによると、内藤藩の武士等四五名は數回にわたつて山狩りに來るたびごとに白鳥はくてふの鳥が水遊びしておるのを見られたと言え、小次郎と言う者が同鑛泉を發見し、慶應年間より明治四五年頃迄白鳥の人、酒井鄕次郎氏現在の酒井芳夫氏の先祖鑛泉業が營を開始して居つたが、明治六年の頃現在の元湯喜樂屋主高橋國太郎氏父庄吉氏が後を受け試業して居るうち山火事にあつて一時中止となり、明治十七年頃に二度復活、リウマチ、皮膚病、切瘍等に又は難病患者の全治したるもの多く名湯と一般から呼ばれ明治四十年頃には下湯長谷人、織内慈平氏（現在の猪木屋信一氏）が開業續いて白鳥の人、吉田元次郎現在の吉田屋が開業、外に馬玉の吉田文彌（現在の直文氏）西郷の箱崎仙治氏二名らが開業を希望されたと言われたが未然に終り、今日では箱喜樂屋、春木屋吉田屋は箱庭の樣な山作に常磐線でも有名な白鳥鑛泉として、遠くは茨城、東京地方より浴する者多く最近では地元からも浴する者も多くなつて居る。



（寫眞は元湯喜樂屋の景）

矢吹佐市翁病む

常磐市下船尾、矢吹佐市翁は最近健康を害し自宅で靜養中である、翁は七十七才喜々の祝として磐崎公民館に六萬円を寄、附全館長中野新平氏らこれを結婚式服等に向け生活改善化に努力して居る事は本紙屢報の通りである翁は藏持國井家より婿入りし製材業に志し湯本の矢吹製材所を創設。又漢學を好くし、本紙へも再三保守合同論を主唱寄稿して居つた、尚ほ執筆中の經濟（農經）論文等ある筈である、切に御全快を禱る

半ケ月間中 四ツ組の慶事
岩出の御祝儀

村上タミヨさん 磐城市岩出村上直氏女タミヨさんは稻川（会川ノブヨさん）の媒酌で北茨城市磯原須田好明氏と婚約成り十二月二十日結婚式を擧げた

鈴木通さん 磐城市岩出鈴木通氏は五十嵐留吉氏の仲人で三和村上市萱黒木久枝さんと婚約成り十二月十四日結婚式を擧行

鈴木サダ子さん 岩出鈴木通氏妹サダ子さんは上津一郎氏の媒酌で内郷市内町櫻木、三本松和吉氏と婚約成り十二月二十九日式を擧ぐ

若松シヅエさん 岩出若松清彌氏女シヅエさんは玉川農業協同組合長駒木根忠三の月下氷人で常磐市下船尾高木保太郎氏次男澤二氏と婚約成り二十八日結婚式を擧げた

小泉康次郎翁

磐城市林城市農業委員小泉敏夫氏父康次郎翁は永らく午病氣靜養中去月二十六日前中永眠され全月二十八日葬送された、行年八十一才故翁は弓道の達人であつた

鈴木龜之助翁

磐城市久保鈴木良造氏父龜之助翁は一月三日長逝五日葬送された行年七十九才翁は岩出山野邊ヨネさんの義兄に當る

橋本畫伯
画会開く、うばの湯で

磐城市藏持橋本華崖（畫家）氏故華關先生に學んだ同市泉町大平華仙氏と兄弟弟子である、氏はまだ四十代の働き盛り、有名な畫家に伸ばそうと常磐市上湯長谷若松茂氏は会員募集して居るが今月二十五、六日頃にうばの湯鑛泉で畫会を開く事になつた

西郷で生れた
有名な豫言者酒井氏

常磐市西郷酒井富次郎氏次男酒井抱洲氏は東京都牛込區内神樂坂一丁目九番地に住んで居る、氏は日本易道会々長、東京聖館々長を務め人生の將來を豫言する易者としてマッカサー元帥長子始め前鳩山首相中央政治家又は昨年四月台灣政府である將介石氏を渡台して將來の予言をしたと言われ、郷里である石城地方では前縣議星友太郎氏は時折上京して酒井氏を訪問予言を受けるとも言われ又磐城市長三代義勝氏は將來の予言をしてもらおうと申入れたが未然におわつたと言われて居る、尚生れ郷里で西郷の住民も氏を知らぬ者が數々あるが西郷で生んだ有名な易者である

四條七十郎氏

小川町に一時居住四條七十郎氏は去月二日正午長男榮一氏の大阪市堺中庄内町字野田一二〇で死去七十六才氏は磐中第一回卒業

謹賀新年

玉川農業協同組合
組合長理事 駒木根忠三
理事 山野邊庄吉
〃 柳井五郎
〃 鈴木芳之助
〃 大和田喜平
〃 野崎左四郎
〃 小泉耕一
〃 高萩次四郎
〃 永井一格
監事 石井幸平
〃 高萩儀平
〃 日高玄海
職員 西丸最
渡邊修平
永崎智子
村上靜江

大和田印刷所
平市仲町 電話（平）729番

常磐市役所 市長 矢吹莊司

常磐市議会 議長 越田和文雄

住吉郵便局 局長 鈴木一平 磐城市住吉

常磐市磐崎農業協同組合 組合長 瀧義勝

磐崎郵便局 局長 大平純一 常磐市下湯長谷

市議会議員 厚生副委員長 大平武一 常磐市下湯長谷

市議会議員 建設委員 磯上佐衛司 常磐市西郷

市議会議員 經濟副委員長 瀧義勝 常磐市藤原

常磐市立磐崎小學校 PTA会長 箱崎幸廣 校長 氏家哲治

常磐市立長倉小學校 PTA会長 土井利明 校長 佐藤豊

常磐市立磐崎中學校 PTA会長 磯上佐衛司 校長 岡部政一

常磐市上湯長谷 姥乃湯鑛泉 若松茂 電話（常磐局）三三〇

常磐市上湯長谷湯台堂 松屋書店 電話（常磐局）六二七

常磐市下湯長谷新道 堂ノ前商店 酒井敏雄 電話（常磐局）三四二

御進物、引菓子各種 味の和菓子、パン 河野商店 電話（常磐局）四二

常磐市西郷 磯上米穀店 磯上久美

常磐線湯本駅下車 白鳥鑛泉 喜樂屋 電話（常磐局）二二七